

アレルギー医療に関与期待 薬局・薬剤師の役割を明記

厚
労
省

厚生労働省は、アレルギー疾患の適切な診療を行う医療提供体制の素案をまとめた。診療所のかかりつけ医や一般病院、都道府県の拠点病院、全国の中止の拠点病院による連携協力を基本方針と位置づける中で、患者の服薬状況や副作用歴を把握する薬学的管理を実施する薬局の積極的な関与も必要とし、薬局・薬剤師の役割も明記した。アレルギー医療への関与に薬局・薬剤師の役割が一つの項目として明記されるのは異例で、新たな貢献への期待に応えられるかどうか。全ては今後の取り組みにかかっている。

医療体制の案では、アレルギー疾患の重症化を予防するための適切な治療と管理に向け、多くの軽症患者を診療するかかりつけ医、病態が安定しない場合に紹介を受け関わる都道府県の拠点病院、さらに国レベルで科学的知見の情報提供や専門的な医療従事者の育成に関わる「中心拠点病院」に国立成育医療研究センター、国立病院機構相模原病院の2施設を位置づけた。これら各機関が連携することにより、アレルギー疾患の適切な治療と管理が行われる体制が重要としている。

その上で、アレルギー疾患の予防や治療につ

いて、薬剤師が患者の服薬状況を把握して薬学的管理を行うなど、薬局の積極的な関与も必要との記載が盛り込まれた。アレルギー医療の均てん化を進める観点から、薬局・薬剤師の役割を盛り込んだもので、一つの項目として薬剤師の役割が明記されるのは異例。それだけ期待されていることの裏返しともいえるが、国の医療提供体制にしっかりと位置づけられる以上、これまで以上に結果が求められそうだ。

具体的な役割としては、アレルギー疾患において、かかりつけ薬局・薬剤師が患者に適切な薬物療法を提供することが重要であり、医療機関やかかりつけ医と連携しつつ、適切な情報提供や服薬指導を行う必要性を強調。薬学的専門性の観点から、服薬情報やアレルギー歴などの副作用情報について、処方医へフィードバックすることも求めている。

各都道府県に1～2カ所設置する拠点病院には、内科、耳鼻科、皮膚科などの学会専門医が常勤することを求め、日本アレルギー学会のアレルギー専門医の常勤に加え、アレルギー疾患の専門知識を持つ薬剤師などの配置が望ましいとした。

偽造薬対策で中間まとめ 取引、流通ルールを明確化

厚
労
省

厚生労働省の検討会は、偽造薬の流通防止に向けた施策を中間的にまとめた。医薬品卸や薬局が医薬品を仕入れる場合には、取引先の身元や販売許可などの確認を厳格に行うことや、医薬品を開封して販売したり、授け渡す場合、開封した業者や薬局名、その住所などを表示することも求めることになる。厚労省は、今夏をメドに省令改正など必要な措置を行う。

従来あいまいだった医薬品の取引に関するルールを明確にすることにより、ルールから逸脱した卸や薬局に対し、適切な指導を行えるようにする。C型肝炎治療薬「ハーボニー」の偽造

品流通問題では、法令上定められている氏名や品名、数量は記録されていたものの、偽造品を持ち込んだ人の氏名は偽名だったため、取引相手の適格性の確認や譲受記録の徹底を求める。

取引相手の氏名、品名、数量、年月日といった従来の項目に加え、相手の住所やロット番号、使用期限を新たに書面に記載し、保存することとし、医薬品の譲渡人、授受人の身元確認をどのような手段で行ったかについても記録に残すよう求める。

ハーボニー偽造品問題では、医薬品が開封済みのボトル単位で流通したことを踏まえ、卸や

国の財政政策「骨太方針」 調剤報酬は対人重視 リフィル

政府は9日、膨らむ社会保障費の歳出改革などを盛り込んだ2017年の「経済財政運営と改革の基本方針」(骨太の方針)を閣議決定した。方針には薬剤師に関連する政策も多数盛り込まれ、保険薬局の収入に直結する調剤報酬について、薬の調製など対物業務の評価を引き下げる一方、在宅訪問や残薬解消など対人業務を重視した評価の検討を明記。かかりつけ薬剤師・薬局や健康サポート薬局の機能を果たす取り組み、リフィル処方の推進方針も明記した。薬価制度の抜本改革に向けては、新薬創出加算の対象を革新性のある薬に絞るほか、類似薬と比べて画期性の低い「改良新薬」の薬価をより下がる仕組みにする方針を明記した。

骨太方針では、患者本位の医療提供体制の構築に向け、薬剤師・薬局の継続的な把握と連携の推進、薬局で診療などICTによる示した。

薬局の収入に言及。薬の調剤評価を引き下げ、残薬解消などの対人業務で、薬局の機能と示した。

また、敷地内での調剤形態の保険薬局機能を精査し、そ

薬局で医薬品の封を開けた者の氏名や住所等を新たに表示することとした。また、品質に疑念のある医薬品を発見した場合の対応を業務手順書に明記することも求める。医薬品を保管する区域への立ち入りも制限する。医薬品は明確に識別された状態で隔離された区域に保管し、医薬品の保管区域への立ち入りは、権限を与えられた職員のみ限定することとした。

医薬品の転売ルートを断ち切るため、患者に販売包装単位で調剤を行う場合の規定も設けた。販売、授与された薬が再度流通することがないように外見から調剤済みと分かるような措置を検討し、徹底することも求める。

さらに、破棄する医薬品の記録を徹底すること、管理薬剤師の責務として偽造品対策の仕入れ先、販売先の確認、返品された医薬品の最終処分判断などを位置づけることも明確化した。

薬事日報

薬のこことなら薬事日報ウェブサイト

HOME ニュース 業界情報 新聞・電子版 書籍・電子メディア 購読・購入

Press Release Title List Press Release Title List: 新製品 行政情報リスト 登録販売者試験 日程一覧

【検連協】「検体測定室」全国で1500超に-薬局・ドラッグ等での開設進む

2017年6月20日 (水) 11:31

検連協が報告

自己採血により採取した僅かな血液をもとに、糖尿病や脂質異常症、高血圧といった生活習慣病に関係のある項目を検査できるスペース「検体測定室」。国のセルフメディケーション推進の流れもあり、薬局等を中心に開設する店舗が増えている。この検体測定室での検体測定を推進するため、専門家を交えた正しい情報提供を行ってきた「検体測定室連携協議会」(略称「検連協」、矢野重也会長・筑波大学准教授)によると、このほど全国の検体測定室数が1500カ所を超えたという。

健康支援機能を求めるドラッグストアでは検体測定室を設置する取り組みも進んでいる。

購読・試験申込み(新聞/電子版) メールニュース 登録(無料)

デジタルカタログ

調剤報酬の推移やアイテムをいつでもチェック

2017年 夏版

読きを読む>

-AD-

【登録無料】薬事日報メールニュース 業界情報を配信!

新着記事一覧>

全カテゴリー一覧>



薬のこことなら 薬事日報ウェブサイト

『薬事日報』に掲載される記事を中心に、医薬業界のニュースサイトとして成長を続けています。

一般からのアクセスは少なく、閲覧者の多くが医薬業界に属しております。業界の情報収集にご活用ください。

<http://www.yakuji.co.jp>

薬事日報

検索

「薬学生新聞」も
ウェブサイトに公開中!!